

令和8年度 越前町立朝日中学校 スクールプラン

◇保護者・地域の願い

- ・学習、部活動、校外活動等に生き生きと前向きに取り組んでほしい
- ・いじめがなく、安心して楽しく学校生活を送ってほしい
- ・ふるさとに愛着と誇りをもってほしい

◇生徒の実態

- ・明るく素直で、親近感がもてる
- ・行事等で団結力を発揮し、努力する
- ・SNSの使用等、自己管理に課題がある

【校訓】 「進取」「精思」「創造」
【教育目標】 志高く 思い深く 未来を拓く 生徒の育成

【目指す学校像】

- ・チーム朝日で支え合い、一人一人の学びとウェルビーイングを大切にする学校
- ・主体的に学び、協働し、挑戦する生徒を育む、安心と活気に満ちた学校
- ・ふるさとに学び、未来を語り、人とつながりながら共に成長する学校

【目指す生徒像】

- ・自ら課題を見付け、見通しをもって主体的に学ぶ生徒
- ・多様な考えを認め合い、協働してよりよい解決を目指す生徒
- ・心身の健康を大切にし、安全・安心な環境で挑戦する生徒



◇越前町教育目標

自らの可能性を最大限に発揮し、他者と共に幸せな未来を切り拓く子どもの育成

◇学校教育方針

よりよい未来の創り手となる子ども達の「生きる力」を育む、ウェルビーイングを基盤とした学校教育

◇朝日地区小中連携目標

子どもの育ちをつなげよう
 ～主体・協働・創造の実現～

未来を拓く学力

～主体的に学び、実社会で生きて働く力～

主体的に学びを調整し、他者との対話を通して、より深い学びへとつなげていくことができる

- ・より深い学びにつながる協働探究プロジェクト学習の質を高める。
- ・生徒の主体的な学びにつながるICTの活用を図る。
- ・A-Timeを活用し、自己調整力と探究心を伸ばす。
- ・ポジティブ教育を授業の中に積極的に取り入れる。

- ・「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する生徒85%以上（「できた」と回答する生徒40%以上）
- ・「自分に合った学習方法を考えたり、内容を選択したりすることができた」と回答する生徒85%以上

豊かな人間性

～対話と協働を通して、他者によりよく生きる力～

多様な考えを認め合い、対話と協働を通して、よりよい行動を選択できる

- ・委員会企画や学校祭などの特別活動を通して、生徒が対話と協働を重ねながら役割を果たし、互いの活躍を認め合える主体的な活動の充実を図る。
- ・生活チェックリストを生徒と教員で振り返り、実態に応じて学級や委員会で話し合いを行い、自らの行動を見直し、改善につなげる場を設ける。

- ・「委員会企画や学校祭などの特別活動で、対話と協働を通して主体的に取り組むことができた」と回答する生徒90%以上
- ・生活チェックリストの点数（6月・11月）が31点以上の生徒90%以上

重
点
目
標

具
体
的
取
組

数
値
目
標

健やかな体

～心身の健康を大切にし、安全・安心に生活する力～

心身の状態を適切に捉え、自らの健康を意識して、安全・安心に学校生活を送ることができる

- ・教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との関わりやスクールノート等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期発見・解決に努めるとともに、部・チームの活用及びSCや関係機関との連携を図り、安心して過ごせる学級・学校づくりを進める。
- ・保健指導や委員会活動（バスコンディションカード等）を通して、生徒の健康・体力づくりに対する意識を高める。

- ・「学校での様々な活動に安心して取り組むことができた」と回答する生徒95%以上
- ・「健康保持と体力の向上に努めて学校生活を送ることができた」と回答する生徒90%以上

学びと育ちをつなぐ連携

～家庭・地域・学校が共に支える学びの基盤～

家庭や地域、校区内の学校と関わりながら、主体的に学び、ふるさとの未来を考えることができる

- ・探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、家庭や地域と関わりながら課題を見だし、主体的にふるさとの未来を考える学習活動の充実を図る。
- ・視点を明確にした小中学校教員間の授業参観・研究協議の充実を図るとともに、校区内の学校と情報を共有し、9年間（およびその先）を見通した系統的な指導の充実を図る。

- ・「地域と連携し、自らの課題に対し主体的に探究活動に取り組んでいる」と回答する生徒70%以上
- ・「義務教育9年間（およびその先）を見通して、生徒に必要な資質・能力を育むように努めた」と回答する教職員90%以上

業務改善のための取組

1. 手をかけすぎない指導…学校行事・部活動・諸会議等における、「手をかけすぎている」部分の洗い出しと改善(主体性を育む)
2. 教育DXの推進…教師の業務効率化と生徒の学習支援
3. 新たな挑戦…全学年チーム担任制、A-Time、県レベルの発表準備 等

- ・80時間超過勤務者ゼロ
- ・月45時間未満者の割合増